

〔普及の現場から〕

総社地域の稲発酵粗飼料（稲WCS）

全県に向けてデビュー

倉敷農業普及指導センター

1 これまでの普及活動の経緯

稲発酵粗飼料（稲WCS）供給システムの確立という課題について、2年前から倉敷市で活動を行っており、平成19年度は0.3haの生産物を4戸の畜産農家が試験的に利用し、平成20年度は1.7haに拡大し、2戸の農家が本格的に利用しています。

また、WCS用稲の不耕起直播栽培の播種や収穫・調製の実演研修会を開催するなど、倉敷地域の大規模稲作栽培集団への取組啓発を行っており、今年度から総社市内の集落営農組織が生産に踏み切ったため、倉敷農業普及指導センター管内での稲WCS生産面積は、昨年を大幅に上回る20.5haに拡大しました。

2 今年の課題

（1）倉敷農業普及指導センター管内の酪農の現状

倉敷、総社市の乳用牛飼育頭数は17戸、545頭です。酪農家1戸当たり32頭で、ほとんどが輸入粗飼料依存型の繋ぎ牛舎です。べールグリッパを所有する農家が3戸しかないためか、地元産の稲WCSの生産拡大ができて、乳用牛への給与量増加には結びつきませんでした。

（2）稲WCSの広域流通

地元の需要量以上の稲WCSロールベールについて、おかやま酪農協やJAグループを通じて購入希望者を募ったところ、新見市の和牛繁殖農場、県中北部の酪農家及び発酵飼料生産事業所が名乗りを挙げられました。

県民局を越えたスムーズな広域連携を実現

するため、備中県民局では6月19日、関係する地域水田農業推進協議会、コントラクター（作業受託者）、普及指導センター担当者が一堂に会した広域流通に係る打合せ会を開催し、販売（購入）価格、決済方法や流通についての検討を行いました。

また、コントラクターの収穫作業競合回避と生産物のおおまかな引き取り日程を把握するため、飼料用稲の生産地ごとの刈り取り適期を確認しました。

3 稲WCS生産組織の紹介

【総社市三輪地区営農推進組合の取組】

この組合は54戸、34haの集落営農組織で、麦・大豆の体系による集団転作を行っています。今年度11ha以上の稲WCSを生産するにあたり、補助事業を活用して、飼料コンバインベアラ、ラップマシーン、べールグリッパを導入しました。

また、麦・大豆の畑栽培を長期間継続したため、湛水と稲WCSのクリーニングクロップ的な効果による雑草対策や連作障害回避をねらいました。

現地での収穫作業を通じて地域に稲WCSの生産拡大を図り、耕種、畜産農家の連携強化の理解を深めるため、9月18日「稲WCSの収穫・調製研修会」を開催し、農家及び関係者合計50名が参加しました。

研修会では、普及指導センターから稲WCSを生産することの利点、低コスト生産技術、畜産農家の経営実態と稲WCSに対する要望について説明し、県民局農畜産物生産課が転作交

付金の今後の見通しについて説明しました。

畜産と無縁であった営農組織が、新たに稲WCS用の機械を導入し、広域流通を図るという県下でも極めて珍しい壮大な計画に、関係者は

耕種、畜産農家の両者が協議する場を設けて、互いの共通認識が持てるよう努力をしてきました。



おからく、新見市との収穫前打ち合わせ 8/31



収穫・調製研修会 9/18

表1 平成21年度 稲発酵粗飼料(稲WCS)実証ほ

栽培者	総社市三輪地区営農推進組合					
栽培概要	品 種	アケボノ				
	面 積	1,050a				
	栽培管理	播種方法	湛水直播	6月1日		
		種子消毒	なし			
		基 肥	発酵鶏糞	300	kg/10a	
			窒素量	6.9	kg/10a	
			硫 安	20	kg/10a	
			窒素量	4.2	kg/10a	
	除草剤	サンバード(粒)	6月2日			
		クリンチャーバス	6月18日			
病虫害防除	なし					
生 育	出穂期	9月7日				
収穫・調製	熟 期	出穂ぞろい～乳熟期	9月18日			
	機 械	稲発酵粗飼料専用収穫期(フレール型)				
	切断長	10～20cm				
	添加剤	ナッキン液(納豆菌とその培養生成物主体)				
	ラップ	片面糊、6層巻				
収穫量調査		生重(9月11日)	3,820	kg/10a		

【実証ほ】

稲WCSの低コスト化を図るために、基肥に発酵鶏糞を施用し、鉄コーティング種子による湛水直播で、食用品種であるアケボノ（一部ヒノヒカリ）を栽培しました。

育苗・移植作業が省け、移植栽培と比較すると春作業の軽減とコスト低減が図られました。

播種方法では、条播した後さらにバラ播きを行い、10aあたり7～8キロ播種したほ場が出芽揃いが良く雑草を抑えることができました。

稲WCSの所得を確保するために、各種交付金の活用が重要です。交付金については地域水田協議会ごとに異なります。

【今後の展開】

稲WCS→大麦→大豆→小麦→稲WCSでの営農体系の確立を図ります。

組合内で食用米生産をほとんどしていないため、次年度県南部では初の専用品種による稲WCS生産にも取り組む予定で、有望な転作作物としての定着を目指すとともに、品質、供給面での安定した飼料生産が実現できればと考えています。

★豆知識★

表2 WCS用稲と水稲との所得比較(各種交付金を除く)

区分	内訳	飼料稲 (WCS)	水稲
収入	粗収入	24,000	115,875
	内訳	2181 kg× 11円	515kg× 225円
経営費	種苗費	1,600	1,600
	肥料費	2,000	14,336
	農薬費	6,224	10,685
	光熱動力費	1,982	1,982
	水利費	1,200	1,200
	共済掛金	0	894
	荷造・包装費	0	1,476
	販売手数料	0	14,076
	減価償却費	11,479	20,794
	修繕費	3,001	6,323
経営費合計	収穫委託料	24,000	0
		51,486	73,366
収入－経営費＝所得		▲ 27,486	42,509

(倉敷農業普及指導センター調べ)